

医療環境の変化と今後の患者見込について

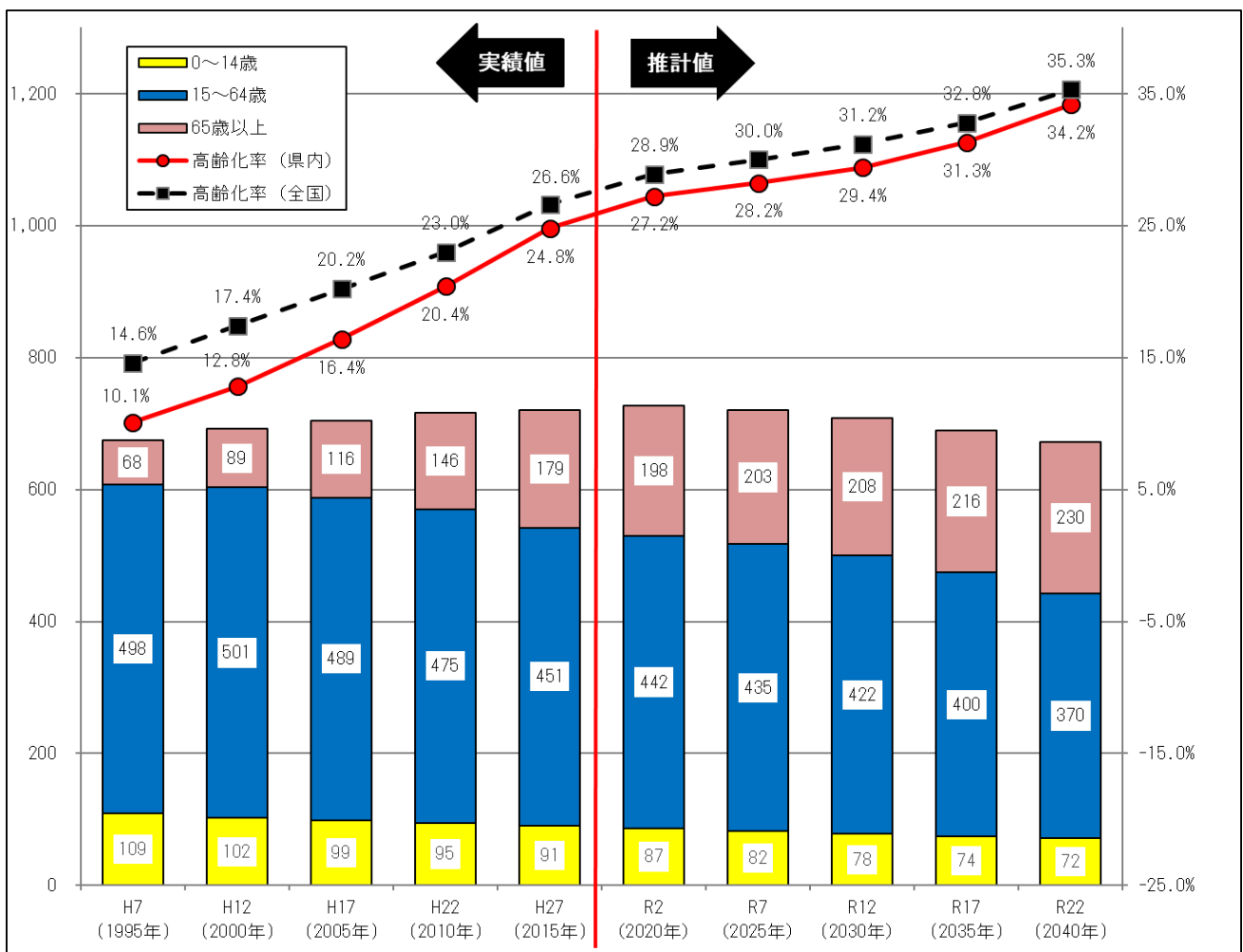
人口及び高齢化率の推移と見通し

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、令和2年の本県の総人口は約727万人で、平成27年（2015年）時点より約6万人増加しているが、令和7年（2025年）には720万人、令和17年（2035年）には700万人を割ることが見込まれている。

令和2年の本県の高齢者（65歳以上）人口は過去最高の約198万人で、高齢化率は27.2%となっている。

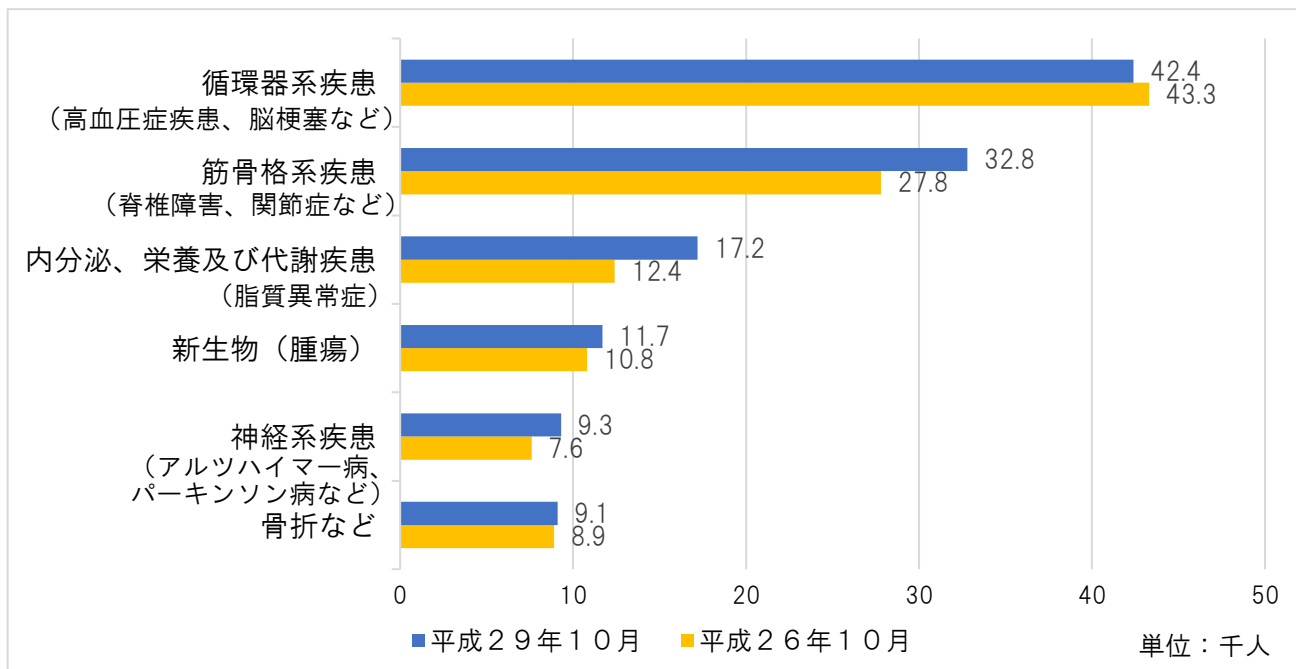
また、いわゆる団塊世代が後期高齢者となる令和7年（2025年）の高齢者人口は、約203万人、高齢化率は28.2%となる見込みである。

さらに、団塊ジュニア世代が65歳を迎える令和22年（2040年）には約230万人となり、令和2年時点より約32万人増加し、高齢化率は34.2%となる見込みである。



埼玉県における65才以上の傷病別入院患者数

脳梗塞や心筋梗塞などの動脈硬化性疾患の原因となる高血圧症疾患、脂質異常症や筋骨格系疾患（脊椎障害）が多くを占めている。



要介護度別にみた介護が必要となった主な原因（上位3位）

介護が必要となった主な原因を要介護度別にみると、要介護者では「認知症」が24.8%で最も多く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」が18.4%となっている。

介護度	第1位		第2位		第3位	
要介護者	認知症	24.8	脳血管疾患 (脳卒中)	18.4	高齢による衰弱	12.1
要介護1	認知症	24.8	高齢による衰弱	13.6	脳血管疾患 (脳卒中)	11.9
要介護2	認知症	22.8	脳血管疾患 (脳卒中)	17.9	高齢による衰弱	13.3
要介護3	認知症	30.3	脳血管疾患 (脳卒中)	19.8	高齢による衰弱	12.8
要介護4	認知症	25.4	脳血管疾患 (脳卒中)	23.1	骨折・転倒	12.0
要介護5	脳血管疾患 (脳卒中)	30.8	認知症	20.4	骨折・転倒	10.2

※平成28年 国民生活基礎調査

今後の患者見込とリハセンの対応状況

神経難病（パーキンソン病）患者数

◎県内の特定医療受給者証所持者数

H29（2017）年度	H30（2018）年度	R1（2019）年度	R7（2025）年度見込
5,371人	5,596人	5,801人	6,967人

※特定医療費（指定難病）受給者証所持者数（衛生行政報告例）

今後の見込は過去の患者増加数を基に推計



◎リハセンにおける患者数（入院患者）

	H29(2017)年度	H30(2018)年度	R1(2019)年度
リハセンにおける患者数 （入院患者）	209人	179人	202人
県内の特定医療受給者証 所持者数に対する割合	3.9%	3.2%	3.5%

高次脳機能障害者数（R1（2019）年度）

◎県内の推計患者数

県内の推計患者数	19,000人
----------	---------

※県内の推計患者数は、「平成28年生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）」（厚生労働省：平成28年12月）を基に県内の患者数を推計

◎リハセンにおける患者数

高次脳専門外来患者初診者数	94人
県内の推計患者数に対する割合	0.5%

※その他、脳血管疾患の入院患者のうち高次脳機能障害と推定される患者が相当数いる。